



個人研究主題

自分の思いや意図を音で表現することができる力の育成

～対話型の学びを深め、学びを共有する手立て

高月 道代

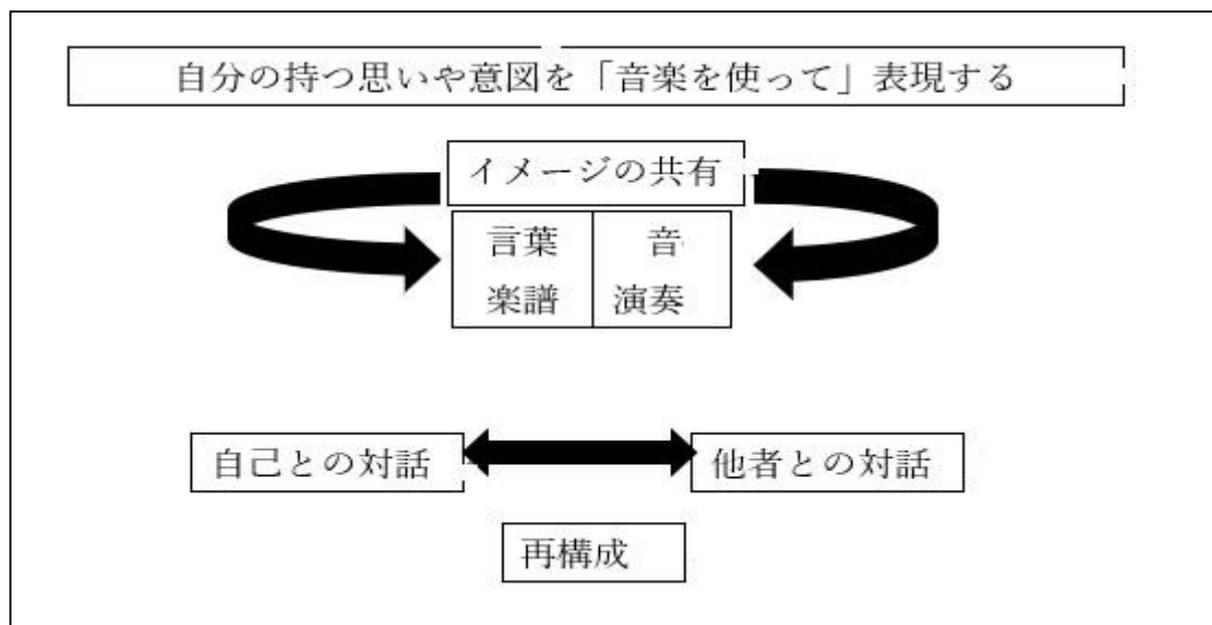
研究の要旨

音楽科の授業において、生徒は曲を聴き、歌い、創作し楽器を演奏することで表現活動を行っている。音楽科における思いや意図とは、学習活動を進めていく中で生まれる「こんな作品をつくりたい」「こんな風に表現したい」「感じ取ったことを伝えたい」などといった考えである。音楽科で求められているのは、自分の思いや意図を「音楽を使って」表現することができる力である。

昨年度は、器楽の題材設定において、まず具体的な音楽の要素を基にして、自分の考えを表現するために、音楽の構造が明確な「聖者の行進」を教材とした。曲を聴き、知覚したことと感受したこと、身に付けたアルトリコーダーの奏法を結びつけ、表現の幅を広げることができた。

今年度は、自分のもつ思いや意図を「音楽を使って」表現するために、生徒の思考・判断ことを、具体的な音楽の要素をもとにして、自分の考えを表現できる主体的・対話的で深い学びにつながるよう、学びを共有する手立てについて研究を進めていく。学びを共有することで、自分と違った視点から学びをさらに深めていける力を育成したい。

■キーワード 思いや意図, 題材設定, 音楽の要素, 対話型の学び





音楽科学習指導案

令和4(2022)年7月1日(金) 第6校時
第2学年C組 授業者 教諭 高月 道代

1. 題材

場面にふさわしい音楽を創作しよう

2. 題材設定の理由

学習指導要領では、音楽の特徴と表したいイメージを関わらせて理解することが明記された。

本学年の生徒は、小学校の「音楽づくり」では、リズム創作を学び、中学校入学後「創作」の授業では、「音のつながりの特徴を生かした旋律づくり」を行った。上行、下行、順次進行、跳躍進行といった音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて創作した。器楽の授業では、アルトリコーダーを使い、グループで『私たちの聖者の行進』を演奏するというテーマで、自分たちの表現したいイメージを、奏法の違いによる音色の変化で表現することができた。調べ学習で「聖者の行進」の曲について詳しく調べ、歴史的背景を学ぶとともに、自分たちの演奏に取り入れることもできた。生徒は、自分たちの表したいイメージを、既存の旋律を創意工夫して表現した。本題材では、「夏の思い出」をテーマに、箏で創作をする。学習活動では、それぞれの場面に合う4小節の旋律をつくり、旋律を重ね、イメージにあったまとまりのある音楽に仕上げる。〔共通事項〕ア（旋律と音色）と関わらせて理解するとともに、箏の音色に親しみ、仲間と対話しながら、まとまりのある曲に仕上げる過程を大切にしていきたい。

3. 題材の学習目標

- (1) 音の重なりや変化などの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で、音楽をつくるために必要な技能を身につける。
- (2) 音色、旋律を知覚し、それらが生み出す特質を雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) イメージを基に音楽をつくることに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の活動に取り組む。

本題材で学習指導要領の内容

第2学年及び第3学年 A 表現(3)創作

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。

(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること。

〔共通事項〕(1) 本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素
音色 旋律

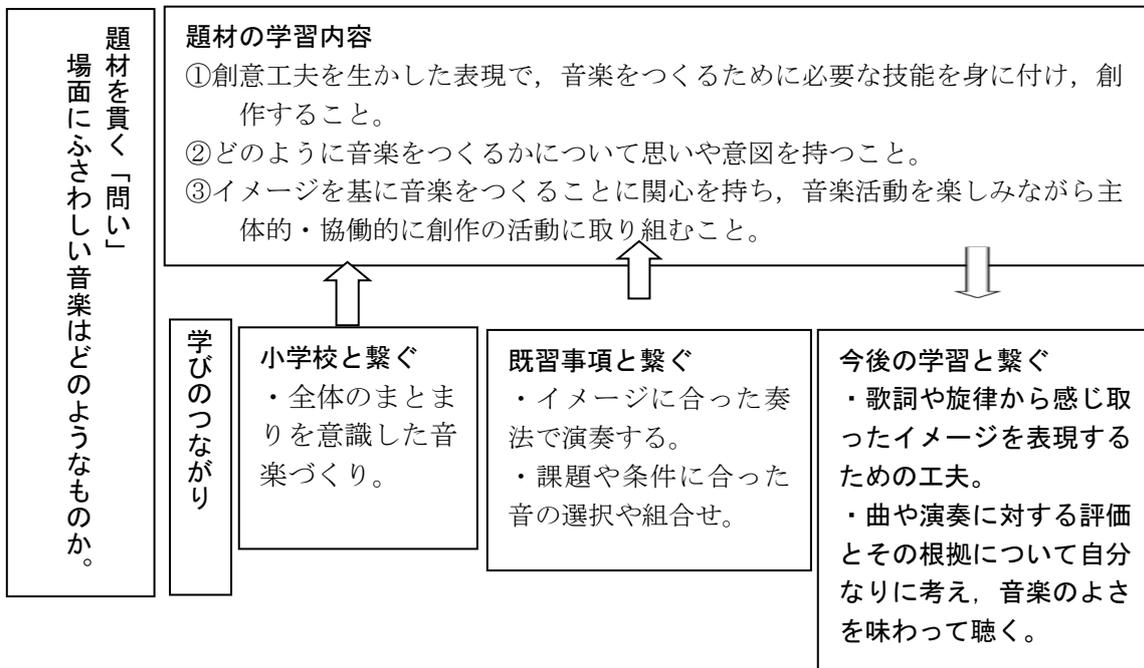
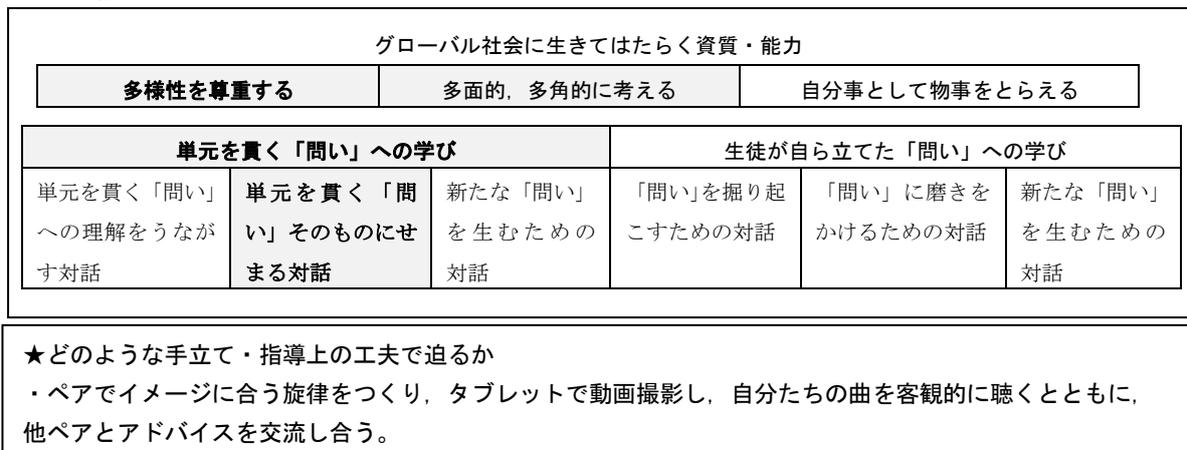
4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知：音の重なり方や変化などの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 技：創意工夫を生かした表現で、音楽をつくるために必要な技能を身につけ、創作で表している。	② 旋律、音色を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	③ イメージを基に音楽をつくることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の活動に取り組もうとしている。

5. 題材の学習計画（全3時間）

時	学習活動	評価の観点		
		知・技	思	主
1	平調子と乃木調子の比較聴取をする。 「夏」のイメージを共有する。 イメージに合う旋律を創作する。	○ 知		↓
2	音楽の仕かけを入れて曲をまとめる。（本時）	○ 技	○	
3	イメージに合う旋律にするために、つくった曲をさらに工夫してまとまりのある曲にしてお互い聴き合う。			

6 題材構想図





7. 本時の目標および探究的学習活動の見どころ

①具体と抽象などの情報と情報の関係について理解を深め、それらを使うこと。

☆探究的学習活動の見どころ

探究的学習活動	A 課題を設定	B 情報収集	C 整理と分析	D 発表と交流	E まとめ	F 新たな課題
---------	---------	--------	---------	---------	-------	---------

8. 本時の学習過程

	学習内容・活動	○指導と◆評価 ★対話的な学びの効果を求める場面
導入	1. 前時の振り返り。 2. 学習課題を知る。	○つくった旋律にさらに創意工夫することを確認する。
	学習課題 音楽の仕かけを入れて曲をまとめる。	
展開	3. ペアで作った曲をまとまりのある曲にしていく。 ・箏を使って、音の重なりを確認する。箏を使っていない時は、タブレットで旋律を再生しながら、工夫を重ねていく。 4. つくった旋律を、グループで交流する。お互いに動画撮影する。 5. 自分たちのつくった旋律が、イメージに合うものになっているか、動画を見て確認し、演奏する。	○音楽のしかけ(ユニゾン・ハーモニー・かけあい・合いの手)を一つ以上入れることを、確認する。 ○お互いの音を聞きながら、イメージに合っているか、まとまりのある曲になっているか、考えさせる。 ★箏の音色、タブレット画面、ワークシートに記入した楽譜を共有し、曲をまとめていく。 ○お互いの曲を聴き、音楽のしかけとイメージがあっているか、アドバイスをし合う。 ◆規準 技 観察 ★他のペアの演奏を聴いて、自分たちの演奏に生かせる工夫を聴き取ったり、自分たちの演奏の思いが旋律として伝わっているか交流し、アドバイスする。 ○動画を見て、自分たちのイメージに合った旋律になっているか、ペアで交流させる。 ◆規準 思 観察 ワークシート
まとめ	6. 本時のまとめをする。	○振り返り用紙に記入を促し、次回の予告をする。

9. その他 箏, スライド資料, 授業ワークシート

